質　問　書

2023年5月 9 日

「（案件名）インドネシア国・モンゴル国サイバーセキュリティ人材育成プロジェクト（教員研修）」
（公示日：2023 年 4 月 26 日／調達管理番号：23a00088）について、質問と回答は以下の通りです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P11 3)モンゴル側 5)	[通訳の必要性について] 「英語のリーディング能力はあっても、ヒアリングやスピーキング能力が十分ではない者が少なからず含まれる」とありますが、TTT の際に通訳を配置する必要はないでしょうか。（英語で問題なく実施できていましたか？）また対象に市民を含むセミナーを実施する際も同様に通訳の配置が必要かと考えております。	通訳を介した場合のメリット・デメリットを考慮した上で御社が最適と考える提案をしてください。 過去の取り組みでは、逐次通訳は時間がかかること、モンゴル語の正確な技術用語が定まっていないことを踏まえ、 ・動画への英語サブタイトル導入 ・参加者間によるサポート ・講義の要所のみに絞り、必要最低限部分のみの通訳配置 に対応していただきました。
2	P14 活動 1-2	「新規開発予定のカスタム科目（Cyber Range を中心とした科目）」の内容について、期待されるものを具体的に教えていただけますか。	新規開発予定のカスタム科目（Cyber Range を中心とした科目）については、網羅すべき知識、スキル、能力の内容についての要件をまとめるところ（具体的な内容の検討含む）からご検討いただきたいと考えております。
3	P15 活動 1-3 の記述と続く表の内容	活動 1-3 の記述で「活動 1-1 に貢献するセミナーを実施する」とある一方で、続く表の「トピックス・対象者」で示されている方針は同様のものでしょうか。	「1-1、日本をはじめとした他国の当該人材育成動向についての情報をC／Pや直営専門家等と協議のうえ、提供する、」に資するセミナーであり、かつ、「トピックス・対象者」に関しては「年毎

			にデジタル開発省セキュリティ局の年間計画に従って決定します。2023 年はサイバーセキュリティ啓発について市民や政府職員、重要インフラ組織の IT 技術者等の幅広い層を対象」と考えております。

以　上